



RI会長
イアン H.S. ライズリー



ロータリー：
変化をもたらす

静岡東ロータリークラブ

会長／高田雅司 幹事／川崎依子

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30～13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
高田雅司

第 2823 回例会

平成 29 年 8 月 31 日 天候 晴

《司 会》 川崎 依子 君

《合 唱》 「奉仕の理想」

《BGM》 「トランペットミュージック」

《ゲスト》 2620 地区ガバナー 松村友吉 様
ガバナー補佐 坂本泰俊 様
地区幹事 倉嶋伸康 様
ガバナー補佐事務局次長 角田貴夫 様

《本日のお祝い》

お誕生日
該当者なし

結婚記念日
該当者なし

《静岡南ロータリークラブ江河会長挨拶要旨》



本日はガバナー公式訪問で、静岡東ロータリークラブと静岡南ロータリークラブとの合同例会です。後ほど松村ガバナーよりご指導をお願いいたします。また今日のためにご準備いただいた東ロータリークラブの皆さまに感謝申

上げます。

東ロータリークラブと南ロータリークラブとの関係についてお話しします。

1964(昭和39)年、東京オリンピック開催、東海道新幹線開通の年に、東ロータリークラブ創立5周年事業として「新しいクラブを作ろう」とのことで、南ロータリークラブが誕生いたしました。ですので、南ロータリークラブにとって東ロータリークラブは親にあたる関係です。親クラブとの合同例会で少々緊張しておりますが、めったにない良い機会ですので、短い時間ですが例会を大いに楽しみたいと思っております。

ありがとうございました。

《高田会長挨拶要旨》

皆さん、こんにちは。今日は国際ロータリー第2620地区松村友吉ガバナーをお迎えし、静岡南ロータリークラブとの合同例会です。松村友吉ガバナーには、後



ほど公式訪問としてのご挨拶をいただきます。よろしくお願ひします。

ホストクラブ会長としてのご挨拶をさせていただきます。

先日27日の日曜日、国際ロータリー第2620地区の社会奉仕活動のセミナーがアザレアにて開催され奉仕プロジェ

クト員会の新聞委員長と共に出席して参りました。松村ガバナーの開会点鐘とご挨拶に始まり、荒川祐二さんの「100万人のごみ拾い」と題した講演と、沼津柿田川ロータリークラブと市川大門ロータリークラブの社会奉仕活動二件の報告がございました。荒川祐二さんの講演は、大学生の20歳の時に、自分を変えたいとの思いで新宿東口でのごみ拾いをたった一人ではじめ、11年を経た現在も継続しているのですが、大きな反響を呼び、現在では全世界500か所以上、参加者15万人以上のムーブメントとなっていることと、結果として自分を変えることができた喜び、の紹介がありました。

又、沼津柿田川ロータリークラブの活動報告は「柿田川湧水清掃保全事業」で、毎年米山梅吉記念館を訪れる、第2580地区の米山奨学委員会とのコラボで、柿田川の清掃活動についてパワーポイントにて報告していただきました。

そして、市川大門ロータリークラブからは、市川三郷町の神明花火大会後の清掃活動の報告がされました。この花火大会は日本でも有数の花火大会で二尺玉をはじめ、2万発もの花火が打ち上げられ、多くの観客が訪れるイベントだそうです。イベント後のゴミは大変なもので、翌日、早朝例会を行い近隣の中・高校生や青年会議所の協力を得ながら活動を実施しているとの事です。清掃活動と共に大会当日はクラブ製作による

クラブ名を入れたゴミ袋の配布や、清掃後の協力してくれた中・高校生への記念品の配布も行っているとの報告がされました。こちらがクラブ製作のゴミ袋です。ロータリーの四つのテストとクラブ名が印刷されています。驚くのは、いずれのクラブも極めて少ない会員数で、地域の特性を効果的に生かした活動を継続実施されているという事です。沼津柿田川ロータリークラブは会員数 17 名、市川大門ロータリークラブは 16 名の会員数です。まだまだ奉仕についても、親睦についてもアイデアと労力を惜しまなければ活動の輪は広がってゆけると感じた活動報告でした。

＜ガバナー挨拶要旨＞

2620 地区ガバナー

松村友吉 様



皆さん、こんにちは。焼津ロータリークラブの松村友吉と申します。宜しくお願ひ申し上げます。ガバナーとして 3 年目で、公式訪問を行う中で今日は 79 クラブ中 47 番目の公式訪問になります。地区内色々なクラブがあり面白く身延ロータリークラブの合同

例会では、斉唱後日蓮さんのお墓の方に手を合わせて 3 回お題目を唱えてからスタートするなど特色のあるクラブもありました。

私は焼津生まれの焼津育ちで、現在焼津で水産業を経営しております。創業は明治初年で来年が創業 150 年になり、松村家では 10 代目になります。戦前は鯉節の製造販売や海産物問屋を家業でやっておりましたが、私の父親が高度成長期に多角化を進め 6 つの会社 15 業種になり、今は私がまとめております。私にも父親の DNA があり、30 代の時に新規事業を興し、40 代でバブルがはじける等ございましたが、その中でコントロールすること、環境変化の中で自ら意図して変化を起こすことが、経営者の役割だと思っております。また「本業に拘ってばかりいてはだめだ」という言葉も父親から教わりました。

イアン・ライズリー会長の「変化をもたらす」というテーマを聞いた時に大変納得がいくきました。ロータリーは世界と地域により良い変化をもたらしましょうと言っています。また、ロータリーの組織内にも変化を起こし、クラブ運営含めて柔軟性を持たせ、自主性を持って任せましょう、ということになっています。現在 120 万人のロータリアンが世界にいますが、拡大しているのは発展途上の国々です。今まで牽引していた先進国は少子高齢化に直面し会員拡大が難しい状況です。その中で、モデルクラブを作り規約を緩めて運営したところ、一定の効果がありました。発展途上国では、毎月 4 回決まった時間に行う杓子定規な例会では困る、もっと融通を利かせて欲しいという声もあります。

イアン・ライズリーさんご自身も声を大にして言われたのは、ロータリーの目的とか中核的価値など根本は全く変わっていない、運営方法で柔軟性をもたせるという事です。私自身も目的や四つのテストを読み、

5 つの中核的価値を何度も反芻したり、ロータリーの根本精神とは何かを考えました。ポール・ハリスの生い立ちやどこで彼の精神性を確立したか学んだところロータリー百年史の中で大変面白い言葉に出会いました。ポール・ハリスは 1868 年、明治維新の年に生まれました。3 歳の時に両親から離れて、お祖父さんに育てられます。お祖父さんは大変働き者で、教育熱心で愛情を注がれました。学んだ事は「勤労の精神」と「寛容の心」と書いてありました。日本の精神に近いなと思い、ロータリー 112 年の歴史の中で日本人に愛されている理由がよく分かりました。

ポール・ハリスが「ロータリアン」という雑誌の創刊号に、ロータリーの精神の根本は、トーレレイション(寛容)と書いています。現状の R I は、財団の資金で海外に人道的支援を行う事が推奨されています。これはすばらしいことだと思いますが、日本という先進国にいて足元にもやるべき事、課題があるのではないかと感じています。この点で方向性を少し修正できればいいのでは、と思っております。

サンディエゴで 5 日間研修を受け、会議の中で会長他スピーチがあります。イアン・ライズリーさんのスピーチの中で、現在は蒸気から始まり電気、デジタル AI に進む第 4 次産業革命期の中で、ロータリーは変化に対応する必要があります。しかし、目的、中核的価値、四つのテストなど真髄は変わりません。未来のロータリーについて若い人からベテランまで大いに討議しましょう、と言われました。私も感銘を受けて、今年は「未来のロータリーを考える」という副題をつけて地区大会を行おうと考えております。日本のロータリーが 2020 年に 100 周年を迎える中で、ビジョン委員会のメンバーの静岡の石田さんに、地区大会で一端をお話いただきます。私自身も R I の将来についてお話させていただきます。

そして会議の最後に、28 歳のシカゴ E クラブの会員(シリコンバレーのベンチャー企業の経営者)からスピーチがありました。「皆さん、今世紀末、ロータリーは残っておりますか？」と話されました。一人ひとりがすばらしいロータリアンになるためには、もっと自立し専門性を極める必要があるのではないかと。クラブはもっと特色、個性を出すべきでは。しかしロータリーというブランドは共通で、大事にしましょう。パワフルで具体的な話に共感し、最後はスタンディングオベーションで終わりました。

企業経営でも長く生き残るのは、個性ある企業です。ロータリーも今変革期で、若い人が魅力を感じて、活動していただける事が大切です。時代の変化にあわせた討議があってもいいのではないかと思います。

ロータリーの組織の特徴は、①ガバナーが R I と会員の考えを繋ぐ中間管理職である点、②トップである会長のテーマが世界にあつという間に浸透するガバナーのすばらしさ、です。グローバル企業を目指す時にも、ロータリーの経営手法は大変参考になると思います。